昭和二十四年六月二十五日印刷
昭和二十四年七月一日發行

土木學會誌

第三十四巻 第二號

土木學會誌 第三十四巻 第二號

目 次

會 告

會長講演

頁

我國將來の道路の在方について……岩 澤 忠 恭……1

報 文

山形縣野川綜合開發計畫の概要と
冷害防止のための新しい取水裝置の提案……正 員 林 將 治……4

基線測量用鋼尺の温度測定について……正 員 加賀美一二三……7

上越線土樽雪崩試驗場に於ける匍進壓測定 (II)……正 員 窪 田 吾 郎……11

河幅擴大部及び狹搾部の水面形……准 員 井 部 勇 一……14

國內主要研究機關の現況について……18

參考資料

資源調査委員會の現況……准 員 京 坂 元 宇……32

土木統計資料 II……34

論文集第四號梗概……35

學 會 記 事……36

外國文献內容目錄拔萃(X)……39

昭 和 24 年 7 月

土 木 學 會

會　告

會費値上げについて

1. このたび 24 年度から會費を値上げすることになりました。就いては一應過去を顧みて眞に其の事情已むを得ざる事を御了解頂きたいと存ずるのであります。
23 年度に於いて相當値上げを致しましたがその後諸物價は高騰に高騰を重ね特に會員との連絡上缺く事の出來ない通信料の 4 倍値上げに伴う一般事務費の膨脹により，他學協會は遂に期末を待ちきれずして昨年秋頃再び値上げを斷行して居るのであります。
2. 當學會も實情再値上げの必然性を持つては居りましたが餘りにも急變甚だしいとのそしりを受けたくないために經費の出來る限りの節約を計りつゝ忍びがたきを忍んで期末まで押通して參りましたが足りないものはやつぱり足りないので遂に數十萬圓の赤字を生ずるの羽目に立ち至りました。學會の將來の發展のために新事務所の建築も致しましたし，24 年度刊行する新圖書の準備的經費も相當額を要しました。
3. これ等の赤字の一部は借款によつてやり繰りは致して居るものの，學會の生命たる學會誌の内容増強は何事をおいても先行の要あること論を俟たないのでこの難局を切り抜けるために，この經濟界不況の眞只中にあつて會員諸士の御負擔を增すことは眞に申しわけないが活氣ある學會を經營するには已むを得ないとの結論に達しまして，去る 3 月末の常議員會で次の通りに値上げ案が承認され，5 月 28 日の總會に於いて御報告した次第であります。
4. ここに其の値上げを發表して 24 年度より實施致すことになりました。即ち

正　員	年額	500 圓
准　員	同	500 圓
學生員	同	400 圓

a. 正員の一時納付 20 ケ年分 終身會員

b. 正員の會費完納年數に應じた一時納付の方法

10 年以上	15 ケ年分	20 年以上	10 ケ年分
25 年以上	7 ケ年分	30 年以上	4 ケ年分

40 年に達した者は以後會費を要しない

c. 特別員

一級	年額	6000 圓以上
二級	同	4000 圓
三級	同	2000 圓

d. 贊助員は一時に 3 萬圓以上又はこれに相當する物件寄附

5. 會員諸士の要望を滿す準備體制は着々整いつつあります。架空の數を整理してあくまで實質的會員の增强を計ることが唯一の念願であります。それにはこの際御自分の周圍の，連絡の絕えて居る會員を 1 人でも多く復活させて下さい。又新會員をどしどし御紹介下さい。會員諸士による倍加運動は實質會員數 17000 名を實現することであります。重ねてお願い致しますが會費の滯納は學會を自滅に導くことになりますから學會と會員の淸い血のつながりを保ち健康なそして明るい學會にするために，會員諸士の理解ある御協力を御願い致します。

會費納入についてお願い

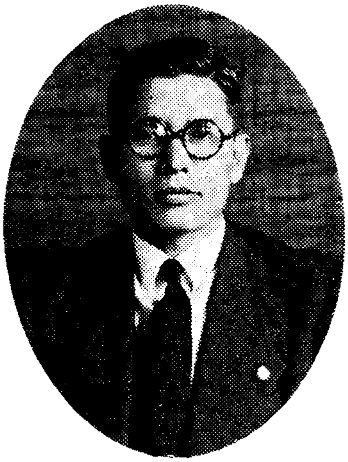
新會費に對して旣納額の差額（正員で旣納 300 圓の方は 200 圓，准員で旣納 270 圓の方は 230 圓，學生員で旣納 240 圓の方は 160 圓特別員も各相當額）を本誌に添付の振替用紙又はその他御便宜な方法でお納め下さいますようお願い致します。

附言：職場班組織運動

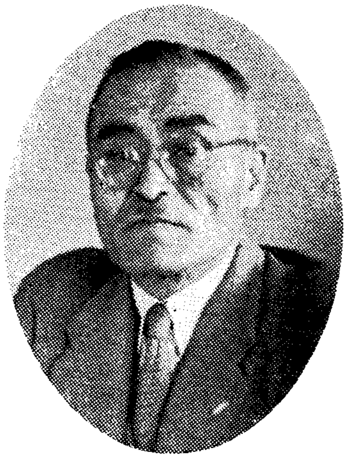
會員との連絡を緊密にし，
不明會員を復活させ，
班の擴張は學會の增强となり，
學會の通信連絡費の節約となつて，

其の効果は日々顯はれつつある事を御報告いたします。同じ職場にある會員は 2 人でも 3 人でも班を結成して御連絡下さい。學會發展のために !!

吉田徳次郎



田中茂美

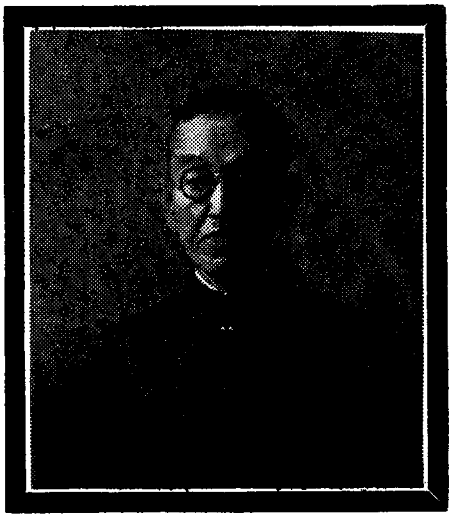


大西英一

新　　役　　員

會　　長	(新任)工學博士	吉田徳次郎	前東京大學教授
副會長	(留任)工學士	田中茂美	日本國有鐵道施設局長
同	(新任)工學博士	大西英一	日本發送電株式會社總裁
理　　事	(留任)工學士	扇田彦一	東京都水道局建設課計畫係長
同	(〃)同	種谷實	鹿島建設株式會社常務取締役
同	(〃)工學博士	星埜和	東京大學教授
同	(〃)工學士	米屋秀三	早稻田大學講師
同	(新任)同	佐藤寛政	建設省道路局企畫課長
同	(〃)同	鈴木信孝	日本國有鐵道施設局線路課
同	(〃)工學士	奥田教朝	建設省都市局區劃整理課
同	(〃)工學博士	國分正胤	東京大學助教授
同	(〃)工學士	市浦繁	通商產業省資源廳電力課
同	(〃)工學博士	仁杉巖	日本國有鐵道鐵道技術研究所第二部第三設計課長

故 名譽會員 前會長 岡野 昇君



略 歴

岡野 昇君は明治9年東京都に於て岡野親美氏の四男として生れ，明治 32 年7月東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業後日本鐵道株式會社技師に任ぜられ，明治 38 年9月信號及び聯鎖装置に關する事項視察のため1ヶ年の豫定を以て歐米諸國に出張を命ぜられた。明治39年11月國有鐵道法に依り日本鐵道株式會社は解散したが，君は引續き鐵道作業局に勤め，同 40 年帝國鐵道廳技師に任ぜらる。明治 42 年 10 月再び鐵道事業研究のため滿2年間歐米各國へ留學を命ぜられ，同 43 年2月出發主としてベルリンに於て研究し，同 44 年 12 月歸朝せられた。大正8 年6月鐵道省工務局長に任ぜられ，翌9年工學博士の學位を授與せられ，同年土木學會常議員に選任された。大正 13 年1月鐵道次官に任ぜられ，土木學會副會長に選任せられ翌 14 年西武鐵道株式會社取締役副社長に就任，15 年同社社長に昇任せられた。昭和 3 年土木學會會長に選任せられ，一方秩父鐵道株式會社取締役，鐵道會議議員，大阪市顧問，信號會會長等を兼ねられ昭和 10 年東京市政調査會專務理事，翌 11 年鐵道同志會副會長，昭和 13 年理研工作機械株式會社取締役，同 16 年理研金屬株式會社取締役等を歴任せらる。

君は官界にあつては鐵道技師，工務局長，鐵道次官として技術發達のため貢獻する所大であり，又土木學會長，各會社の社長取締役顧問等の數多の要職に就かれて我邦土木工學の進歩土木技術の發達に盡瘁せられその効績偉大なるにより昭和 20 年土木學會名譽會員に推擧せらる。

昭和 21 年信號保安協會長及び鐵道總局參與に任せられた。

高齢疾を得て遂に起たず，昭和 24 年4月 28 日東京都北區上十條の自邸に於て長逝せられた。

洵に哀悼の極みに堪えない，享年 70 有 4

趣味は謡曲圍碁で6男を有し夫々立派に活躍されてゐる。